

視察等報告(復命)書

三次市議会議長 様

報告者氏名 黒木靖治

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

視察議員	(会派:公明党) 黒木靖治・中原秀樹
期 間	令和 5 年10月 5 日(木)～ 令和 5年 10月 5 日(木)
視 察 先	・兵庫県豊岡市(コウノトリ文化館)
視 察 用 務	・有機農業の取り組み
視察先対応者	・豊岡市役所 コウノトリ共生部 農林水産課 参事
概要及び所見	【豊岡市の概要】 ・人口 76,851人 ・世帯数33,721世帯 ・面積697,55km² ※日本一の鞠の生産地、城崎温泉が有名 豊岡市は、1900年代前半頃まではコウノトリを見に来る観光客で賑わっていたが、農薬散布などにより、1971年にコウノトリが絶滅したためロシアからコウノトリを導入人工繁殖に成功し、1992年からコウノトリ野生復帰計画がはじまり、コウノトリを復活させるために、最も変わらなければ意見克ったのが農業でコウノトリ育む農法の定義(安全・安心なお米とたくさんの生きものを同時に育む農法(栽培方法:有機農業)①雑草対策 ②作業の手間 ③冬期や早期の水管理)の課題と解決に向けた取り組みを県、市、JAと一体となって協議会を設立し取り組まれている、2025年には、学校給食のごはんを100%有機米を使用する計画を立てて取り組みをされている。

【 所 見 】

[目的と成果]

- ・市内の子ども達へ、安全で安心で、地域の誇りとなる食材の提供。
- ・農家の生産意欲の向上と所得向上。
- ・農家の生産意欲の向上と所得向上。有機農業の取り組み面責の拡大。
- ・地域イメージの向上(コウノトリ育む農法)。
- ・SDGsの取り組み
- ・地産地消の普及。
- ・価値ある商品づくり、新規就農者の増加、生物多様性保全、移住者の増加。

上記の目的により、成果を積み上げられている。

三次市においても、子ども達に、安全・安心な食材の提供、「環境」「経済」「社会」を良くし、持続可能な農業のあり方を市・JA・県と一体となって協議会を立ち上げて希望の持てる農業を協議していくべきと考えます。

有機農業の取り組みは、時間がかかるとはいますが、国のみどりの食料システム戦略の施策を活用して取り組みを進めてもらいたい。

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 中原 秀樹

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

視 察 委 員 会	会派 公明党
期 間	令和5年 10月5日（木）～ 令和5年 10月5日（木） 1日間
視 察 先	兵庫県 豊岡市
視 察 用 務	「豊岡市の農業と学校給食への有機米導入に向けた取り組み」
概要及び所見	【概要】 兵庫県豊岡市は、 人口：76851人（2023.8.31現在） 世帯数 33721世帯（2023.8.31現在） 面積 697.55K㎡（県内最大） コウノトリ野生復帰の取り組みと農業 1965年 コウノトリ人口飼育が始まる 1971年 日本の野外でコウノトリ絶滅 1985年 ロシアからコウノトリを導入 1989年 人口繁殖に成功（人口飼育が始まってから24年経過） 1992年 コウノトリ野生復帰計画が始まる コウノトリの野生化の3つのねらい (1)コウノトリとの約束 (2)野生生物の保護に関する世界的な貢献 (3)コウノトリも住める豊かな環境の創造 コウノトリを育む農法の定義 ・安全・安心なお米とたくさんの生き物を同時に育む農法に行きつく。 コウノトリ育み農法は、一般的な農法とは違い農薬をほとんど使わない。 水管理も大きく違い、早期からしっかりと水張りして中干は延期する。冬季には水張してコウノトリの餌場に提供。

湛水中の圃場は、微生物の活動が活発になりミミズなどが稲作に適したトロトロ層を作り上げる。水管理の特徴としては、中干を延期している。オタマジャクシがカエルになる7月上旬まで延期し、カエルがカメムシなどの害虫を食べてくれることも分かっている。

深水管理が大切な為、コウノトリの農法では50%が水管理に時間を費やしている。そこで、スマート農業プロジェクトでスマホ・タブレットによる水位・水温・地温などを簡単に管理できる取り組みをしてきた。

【所見】

学校給食への提供については、米を全量無農薬米へ転換され、米以外は提供可能な時期の品目から徐々に有機作物に使用料を増やされてきたことに驚きました。給食の食材に提供するということは、安定供給が大前提であるため有機野菜を増やすことは本当に努力されたと感じた。生産者との連携が出来ていないと絶対に成り立たない。

規格外の野菜も廃棄しないで加工業者等と連携して加工食品にしたり、子ども食堂へ提供する仕組みづくりは本当に素晴らしい。

三次市の中山間地域では、農業は大切な産業であります、しかし近年後継者が不足していることも大きな課題であるとともに、農業だけでは生計が経たないことも原因にあると考えます。今回、豊岡市でのコウノトリを育む農業と言うのは並々ならぬ努力が見えました。収穫を増やすために科学肥料や農薬を多く使ってきた経緯があります。しかし、それがカエルなどの害虫処理班を減らしてきていることを知りました。近年カメムシなどの害虫が増えているのは、自然界のリズムを壊しているからと考えるともう一度自然環境にあった農業を行うことも大切であると考えさせられました。

たとえ生産量が少なくても、顧客が求める安全・安心な有機作物を三次市でもこれから取り組めるように進めていきたいと思っています。